



第 172 回 例会 氷ノ山 報告

例年金井良碩さんが幹事で開催されている氷ノ山だが、今年はこの時期に中国地質大学との交流会を企画し例会の代わりとしたが、交流会が先方の都合で 4 月に延期された。予定が空いたので氷ノ山例会を復活させようと居谷さんから提案があって実施の運びとなった。

◇期日: 2014 年 2 月 15 日(土)~17 日(月)

◇参加者: 井上達男(L) 和光広典 居谷千春 山田健 向山順子

行動概要:

2 月 15 日

14:00 午前中に理事会と ACKU news の発送準備を済ませて 3 台に分乗して出発

ねむの木山荘泊

向山順子さんは昨年末に山岳会への入会希望があり特別会員へ推薦の予定だ。神戸大学付属病院に勤める一方、医学部大学院にて研究生活を続けている女医さん。海外遠征にも興味があり、現在は内臓外科で手術の腕を磨いている。山岳ドクターにもなりたいとの夢もあり、山岳会の一員として迎え入れたいと皆が思っている。山岳部の医療面での指導もお願いしている。山田さんから誘ってもらい参加することになった。冬山は大山や乗鞍にも登っている。スノーシューで参加されたが樹氷の美しい氷ノ山を楽しんでおられた。

ねむの木山荘では小屋番で滞在されている橋本昭さんを交えて夜更けまでうまい酒を飲んだ。

2 月 16 日(日) 晴れ 北風

9:00 リフト乗車

9:32 氷ノ山国際スキー場センターハウス出発

10:19 井上、山田林道から東尾根の斜面に取りつく

10:25-10:35 東尾根

10:55-11:00 東尾根避難小屋

11:50-12:00 一の谷のコル

12:30 一の谷乗越の台地

井上と山田は林道を東に、山の鼻を右に廻りこんだところの小さな谷の左岸の林を登って東尾根に出た。ここは昨年居谷がシールとスキーの調子が悪くて尾根まで二時間近く掛かり、結局ヒュッテに登るのを断念した斜面だ。居谷殺しの坂と呼んで酒の肴にした。和光、居谷、向山は夏道から避難小屋に登る。小屋で 30 分待って井上たちが到着。東尾根はシュカブラが発達していた。先行パーティのトレースが行儀悪く乱雑に付けられていてその力量を疑う。スキー登行のルートが付けづらい。一の谷の登りになってやっとシール登行のジグザグが切りやすくなった。スキーのラッセルはなく、氷化した雪面をシュカブラが覆っているのでクトー(スキーアイゼン)が頼もしい。久しぶりに気持ちよく一の谷を越した。



ACKU



向山順子(一の谷コル)



居谷千春(一の谷コル)



山田健(一の谷コル)



和光広典(千本杉ヒュッテ)

12:50～14:00 井上、和光、居谷、千本杉ヒュッテ到着 青空に樵の樹氷が美しい。

14日から降り出した雪はヒュッテあたりで60～70cm程度の積雪になっていた。それが風でパックされて壺足だと膝上まで潜るコンディションだった。

シール登行の井上が到着後、しばらくして和光がスノーシューでヒュッテ着。居谷はワカンで先行パーティがよく踏み固めたトレースをモンスター樵で外れてからゴジラ落しのラッセルに悩まされた。荷物を半分デポしてやっと進むようになった。小谷を越えたところでスノーシューを持って助け舟に出た井上にリュックをトスし、デポ回収に行った。スキーで10分のところを一時間以上費やしてのヒュッテ到着。道具の違いが明確に現れた。年寄りには道具に金をかけるべし。



氷ノ山頂上から帰ってきた山田と向山を迎えて(16日 14:17)
向山 山田 和光 井上 (居谷撮影)

ヒュッテの入り口は新雪が 50cm 程度積もっていた。屋根には 20cm 程度の積雪で今冬は雪が少ない印象だ。昨年ヒュッテの周りで 5m 超だったが今年は 3m 程度だ。除雪用のスコップが見当たらない。しかたなくドアの周りを手掘りした。冬のヒュッテ利用者にスコップを扉の近くに置いておくことを徹底しなければならない。

月曜日が仕事の山田と向山は一の谷を登りきった台地のモンスター櫛で別れて直接頂上に向かう

14:05 頂上から山田、向山がヒュッテに戻る

山田はスキーが快適だったと言う。向山もスノーシューで潜らずに軽々と下ってきた。小屋直行組はもたもたしていたためにお茶の準備ができていなかった。和光があわててお茶を出すと、早速山田と向山は東尾根を下っていった。

15:00～17:00 居谷単独で頂上往復

16:30 山田、向山は無事に下山

ヒュッテ組はビールから始まって焼酎、ウイスキーと夕食前から宴を楽しんだ。ヒュッテは 1 月、プロの山岳ガイドを指導員に神大山岳部のほか関西の大学山岳部員が冬山トレーニングに入山している。大学山岳部の交流はどんどんやるべし。

薪が残り少なくなってきた。あと四、五日分だろう。春の整備登山ではあらたに櫛の玉切りが必要



ACKU

だ。単三の電池が不足している。ストーブのスノコが割れている。のぞき窓のガラスを四隅で止めている金具の一つが焼ききれてそちらの扉を開けるとガラスが脱落する。煙突掃除は春の整備の必須項目だ。LED ランタンも明るいのをもう二つぐらい設置したい。

今晚の千本杉ナベは豚や帆立貝、鱈の入った水炊きだ。何杯もお代わりした。ねむの木山荘ではおでんだった。和光がすべて準備して調理もしてくれた。感謝!!

2月17日 霧 後 雨

7:50 ヒュッテ出発 頂上往復

昨日頂上に行った居谷がラッキーだ。千本杉、古千本から二の丸方面の樺の樹氷など誰も居ない氷ノ山の山頂をゆっくり楽しんだ。今朝は古千本辺りは濃い霧に包まれて頂上の展望はなかった。頂上から古千本までは少しの距離だが方向を誤ると流れ尾根側や大屋川の源流に迷い込む。スキーの井上は和光と居谷の姿を頼りに見通しの利く古千本までそろりと下った。

千本杉の林からヒュッテまでの滑降はこれぞ氷ノ山のベストスキー滑降と感動する。

9:00 ヒュッテを戸締りして出発

井上は一の谷下まで一気に滑降、そこからトラージェンに切り替えて壺足で避難小屋まで下り、その先のピークで再びスキーを履いて「居谷殺しの坂」を下った。稜線はクラストとシュカブラで滑りにくく、「居谷殺しの坂」は雪が重くて一汗掻いた。林道は何とか滑ってくれたので夏道を下った和光と居谷にあまり遅れずにスキー場に着いた。

東尾根で下山中和光がスノーシューに足を取られて右足首をひねった。大事をとってスキー場はリフトで下った。

11:00 下山

万灯の湯に入り、道の駅で八鹿豚のトンカツ定食やカツ丼を食べた後解散。雨が激しく降り出した。

(以上 井上達男 記)

*****ねむの木山荘にて*****



山田健 和光広典 橋本昭
向山順子 居谷千春 井上達男

橋本昭さん(cc 高田誠さん cc みなさま)

今回もねむの木山荘ヒュッテマスターありがとうございました。楽しい集いでした。

今回の氷ノ山は最高でした。まだお帰りでないと思いますが集合写真を送ります。

高田誠さん、

ねむの木山荘を使用させていただきありがとうございました。また4月よろしくお願ひします。

(居谷)



雪かき後のねむの木山荘

≒小屋の後ろの雪かき、あんなに汗がでる作業は久しぶりでした。いい減量になりました。

キーパーはたいへんなんですね。(居谷)